令和3年度 京都市京町家保全・継承審議会

開催日時	令和3年6月30日(水) 午後6時～午後8時
開催場所	京都市景観・まちづくりセンター ワークショップルーム(「ひと・まち交流館 京都」地下1階) ※ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、委員は、基本的にオンライン参加とし、一部委員のみ会場で参加
出席者 (委員は五十音順、*の委員はオンライン参加)	<p>会長 高田 光雄(京都美術工芸大学 教授)</p> <p>委員 *井上 えり子(京都女子大学 教授)</p> <p>〃 *伊庭 千恵美(京都大学大学院 准教授)</p> <p>〃 *内山 佳之(公益社団法人 全日本不動産協会 京都府本部 理事)</p> <p>〃 *大場 修(立命館大学 教授)</p> <p>〃 *川邨 明日香(市民公募委員)</p> <p>〃 *木村 忠紀(京都府建築工業協同組合 相談役)</p> <p>〃 *栗山 裕子(特定非営利活動法人 古材文化の会 副会長)</p> <p>〃 *小島 富佐江(特定非営利活動法人 京町家再生研究会 理事長)</p> <p>〃 *是永 美樹(市民公募委員)</p> <p>〃 *志藤 修史(大谷大学 教授)</p> <p>〃 *苗村 豊史(公益社団法人 京都府宅地建物取引業協会 常務理事)</p> <p>〃 *中嶋 節子(京都大学大学院 教授)</p> <p>〃 *宗田 好史(京都府立大学 教授)</p> <p>〃 山田 章一(有隣自治連合会 会長, 有隣まちづくり委員会 会長)</p> <p>〃 *若村 亮(株式会社らくたび 代表取締役)</p>
欠席者	委員 宮川 邦博(公益財団法人 京都市景観・まちづくりセンター 専務理事)
議題(案件)	<p>1 開 会</p> <p>2 会長選任等</p> <p>3 議 題 京町家の保全・継承に関する主な取組の状況(令和2年度) 及び 今後の取組予定(令和3年度)等について</p> <p>4 報 告 指定部会について 新町家の普及について</p> <p>5 取組紹介 特定非営利活動法人 京町家再生研究会</p> <p>6 閉 会</p>
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料1 委員名簿 ・ 資料2 京町家の保全・継承に関する主な取組の状況(令和2年度) 及び今後の取組予定(令和3年度) ・ 資料3 京町家の保全・継承に係る基礎データ等

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料4 京町家の保全・継承の取組における代表的な事例 ・ 報告資料1 指定部会について ・ 報告資料2 新町家の普及について ・ 参考資料 令和2年度 京町家の保全・継承に関する取組一覧表 ・ 冊子等 <ul style="list-style-type: none"> ・ 市民しんぶん（令和2年7月1日号） ・ 京都新聞 鼎談記事（令和3年3月28日掲載）
--	---

議 事 の 経 過	
発言者	発言の内容
事務局	<p>1 開会</p> <p>定刻となりましたので、ただ今より「令和3年度 京都市京町家保全・継承審議会」を開催させていただきます。</p> <p>各委員の皆様におかれましては、大変お忙しい中、御出席いただきまして、誠にありがとうございます。</p> <p>私、都市計画局 まち再生・創造推進室 京町家保全継承課長の三原でございます。会長選任まで進行を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。</p> <p>本審議会は、京都市京町家の保全及び継承に関する条例の規定に基づき設置しているものであり、本審議会での議論を踏まえて平成31年2月に策定した京町家保全・継承推進計画において、年に1回程度審議会を開催し、計画の進捗状況、成果の確認・検証を行うこととしていることに基づき開催するものでございます。</p> <p>なお、会議の公開につきましては、京都市市民参加推進条例第7条第1項において、附属機関の会議は原則として公開することとされており、本日の審議会では、非公開情報を扱わないことから、公開で開催させていただきたいと思っております。こちらの会場には報道関係者及び市民の傍聴席を設けておりますので、御了承いただきますよう、お願いいたします。</p> <p>また、議事録については、事務局が作成した後、委員の皆様にご確認をさせていただいたうえで、後日公表させていただく予定にしておりますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>(配布資料の確認) (委員の紹介・事務局の紹介)</p> <p>続きまして、都市計画局長の鈴木より御挨拶させていただきます。</p>
鈴木局長	<p>本日は、改選後初めてとなります令和3年度第1回審議会に、委員の皆様には大変お忙しい中、出席いただき厚くお礼申し上げます。</p>

事務局	<p>また、この度は審議会委員への就任に際しまして、御承諾をいただき重ねてお礼申し上げます。</p> <p>改めまして都市計画局長の鈴木でございます。私、平成31年4月からこの職に就いておりますが、先の2年間は住宅政策監の岩崎が京町家の事務を所掌していたので、皆様にこうした場で御挨拶申し上げるのは初めてとなります。どうぞよろしくお願い申し上げます。</p> <p>御案内のとおり、当審議会において、活発な御議論をいただきまして生まれた条例が制定されて3年半。それに基づく計画が策定されまして、2年が経っております。</p> <p>この間、解体届の義務付けによりまして、指定京町家の解体の危機を把握できるようになり、京町家マッチング制度の活用第1号として、委員の皆様にも御見学いただいた大型京町家が文化体験施設として活用されることとなりました。また、近々に第2号として解体相談のありました京町家が飲食店として活用される予定となっております。更に、京町家賃貸モデル事業でも、活用事例が出てきているところでございます。</p> <p>一方で、指定京町家への改修補助金につきましても、後程、実績を報告させていただきますが、令和2年度は大幅に申請件数も増えており、まだまだ取組は手ぬるいとの御指摘を受けるやもしれませんが、これらの取組によりまして、所有者の皆様のお悩みに寄り添いつつ、支援を行うことで、将来に残すべき京町家の保全・継承につながっていると考えているところです。</p> <p>現在、京都市では、財政構造の抜本的な改革を実行し、公債償還基金の枯渇を回避するために、行財政改革案を策定し、パブリックコメントを実施しているところでございます。その中では支出面の抑制だけでなく、都市の成長戦略を掲げてございます。</p> <p>私、京都の文化力は都市を成長させる源泉であると考えております。戦略にも、そうした思いをちりばめさせていただいているところでございます。審議会で御議論いただく「京町家」は、まさに京都の「文化」が凝縮されたものでございます。皆様におかれましては、そうした点からも、幅広い観点からの活発な御議論をお願いいたします。本日は限られた時間ではありますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。冒頭の挨拶とさせていただきます。</p> <p>2 会長の選任等</p> <p>続きまして、次第2「会長の選任」でございます。</p> <p>京町家の保全及び継承に関する条例施行規則第7条第2項の規定により、「会長は、委員の互選により定める。」こととしております。</p> <p>御推薦などはございませんでしょうか。</p>
-----	--

中嶋委員	<p>これまでも、会長を務めていただき、京町家の保全に長く関わっておられて、精通している高田委員にお願いできればと思います。</p>
事務局	<p>ただいま、高田委員との御発言がございました。他に御推薦はございませんでしょうか。</p> <p>それでは、高田委員に会長に御就任いただくことで、よろしいでしょうか。</p> <p>(一同異議なし)</p> <p>ありがとうございます。それでは、高田委員に本審議会の会長に就任いただきたいと思います。高田委員よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、高田会長から、一言、御挨拶をいただきたく存じます。</p>
高田会長	<p>ただいま会長に御指名をいただきました高田でございます。これまでも皆様に活発に御議論いただいているところなんです、コロナ禍の中でいろんな状況が大きく変わっていることを実感しております。</p> <p>先ほど鈴木局長から御紹介がありましたように、この条例を受けて、具体的な施策が策定され、様々な施策が現実には講じられてきたということについては、後程詳しい報告があると思いますが、一部ではそれなりの成果も上がっているということですが、一方で京町家の滅失が中々止まらない。我々まちを歩いていて本当に目の前で町家がどんどん壊されていくという状況が続いている。この条例の力をもう少し期待していた我々、まだまだやるべきことがあると痛感しております。</p> <p>一方で、コロナ禍の中で中々集まって協議をするとか、地域の中でいろんな活動をするというのが難しい状況が続いていて、情報が十分行きかかっていないということを強く感じます。この町家の滅失に関わる背景には色々なことが起こっているわけですが、届出制度があつてですね、情報が分かるようになりましたけど、それ以外の情報は十分つかみきれないということが、非常に歯がゆく感じているところですが、コロナの蔓延の中で京都の観光政策・景観政策の考え方も大きく変わらなければいけない状況になっていると思います。</p> <p>先ほど、鈴木局長からもおっしゃった京都の財政問題の深刻化、これは前から深刻ですが、より一層深刻化したということがあるようで、その中で京町家の保全・継承の重みを、市民としてどのように受け止めて、あるいは施策に落とせばよいのか、より難しい問題を議論しなければならない状況にあると思います。</p> <p>一方で、コロナの中での市民の生活の価値観というもの、それなりに変わってきて、まずいことばかりではないという風に思いまして、それから今日のオンライン会議でも、デジタル技術を使った様々な活動も少しず</p>

事務局	<p>つ定着し始めていると思います。色々問題もありますが、一方で、ポストコロナの住まい方、あるいはまちづくりのポジティブな展望を持ちながら、この問題を次にどのように展開したら良いのか、皆さんから御提案をいただけたらと思っております。今日は限られた時間ではありますが積極的な御提言、あるいは問題提起をお願いしたいと思います。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、以降の議事進行につきましては、高田会長をお願いしたいと存じます。高田会長、よろしく願いいたします。</p>
高田会長	<p>それでは、議事を進める前に、会長の職務代理者を指名させていただきたいと思います。</p> <p>京町家の保全及び継承に関する条例施行規則第7条第4項の規定により「会長に事故があるときは、あらかじめ会長の指名する委員がその職務を代理する。」こととなっておりますので、大変僭越ではございますが、私から指名させていただきます。</p> <p>職務代理者は、これまでどおり宗田委員をお願いしたいと思っておりますがいかがでしょうか。</p> <p>(一同異議なし)</p> <p>よろしゅうございますか。それでは宗田委員よろしく願いいたします。</p> <p>続きまして、指定部会員及び部会長の指名ということですが、京都市京町家の保全及び継承に関する条例施行規則第9条第1項及び第3項の規定により、審議会委員の中から、それぞれ会長が指名することになっております。委員改選後の部会員は、引き続き、大場委員、栗山委員、中嶋委員、宗田委員、私の5名で構成し、部会長は大場委員をお願いしたいと考えておりますが、よろしいでしょうか。</p> <p>(一同異議なし)</p> <p>それでは、部会長は、大場委員をお願いしたいと思います。</p>
高田会長	<p>3 議題, 4 報告</p> <p>それでは、本日の議事の進行について、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>(資料3, 資料4, 報告資料1, 報告資料2について説明)</p>
高田会長	<p>ありがとうございました。ただいま事務局から、次第でいうところの議題と報告について説明がございました。以上について、皆様から御意見、御質問をいただきたいと思っております。どういう観点からでも結構ですので</p>

<p>小島委員</p>	<p>御発言をお願いします。いかがでしょうか。</p> <p>すみません。質問してもいいのでしょうか。小島です。新町家パートナー事業者の判断基準はどういうものがあるのでしょうか、紫野の家の説明を拝見していると、気密工法の家と書いてあるんですね。温熱環境に配慮した気密工法の家というのがあるんですが、私たちが考える京町家というのは風通しをものすごく重視しておりまして、子どもたちと今風通しをどう考えるかというようなことをやっているんですが。新町家というのは現代の家という意味なんですか。そこら辺の判断基準がわからないため教えてもらいたいです。</p>
<p>事務局</p>	<p>今回、物件を例えば認証するというものではなくて、あくまでも京町家の知恵を取り入れて、それを新築で頑張っておられる事業者を応援する制度でして、その事例としまして、平成19年9月以降に、新町家の5つの指針のうち、3つ以上を取り入れたものということで、条件付けをさせていただいて、その中で、紫野の家は5つの指針全てに合ったんですけども、確かに省エネかどうかは要件にありますのと、庭をきちんと整備されているとか、外観を周りの外観に合わせていただいているとか、伝統の瓦や畳を使っているとか、土壁を使っているということを紫野の住宅ではしていただいています。なので、確かに新築住宅になると気密性が高い建物がほとんどにはなってくるんですけども、京町家の知恵を完全に無視しているわけではなくて、取り入れることができる部分は取り入れていっていることで、少しでも京町家の知恵を取り入れた住宅を広めていきたいという趣旨です。</p>
<p>伊庭委員</p>	<p>すみません。伊庭ですがよろしいですか。私の専門分野に関わるところの話なので。気密工法と住宅の風通しというのは全く逆のものではなくてですね、気密工法の家でも、ちゃんと窓の配置を考えて、季節の良い時には、窓を開けると良い風が入って来るという風に設計することが大事で、例えば、真冬や真夏のように冷暖房をある程度使わなくてはいけない時期には窓を閉めると、きちんとエネルギーを有効に使いながら室内環境を確保できるという考え方で作られているので、今回言われている気密というのは、例えば、壁と床の変な隙間をなくすですとか、変なところに隙間があると、壁の中で結露して建物の耐久性を損ねるといったことがありますので、そういう良くない隙間を減らして、必要なときには通風が得られるような開口部の配置をするということで、必ずしも、相反することではないと考えています。</p>

小島委員	<p>はい。ありがとうございます。気になったのは、そういう議論がきちんとなされているかというところだと思うんですね。京都市さんの御説明では、京町家の知恵ということをいつでもおっしゃるんですけども、京町家の知恵をどのように表現されているかというのが、この新町家の募集では、漠然としすぎてて、もう少し何か具体的な、今の伊庭委員の御説明だと風通しをちゃんと作るための窓の配置とか隙間のこととか色々良くわかるんですけども、そういったことを表現として何か出さないと形だけで選んでいるみたいで、何となくわかりにくいものがあるので、もう少しきちっと表現をされた方が良いのではないかと。それでないと私のように、気密ということにすごくこだわってしまう人もいるでしょうし、何かもっときちっと京町家の知恵を説明してほしいと思います。寸法にしろ、風通しにしろ、色々なところで知恵があるということが、これでは説明不足だと思うんです。</p>
事務局	<p>申し訳ございません。新町家の説明不足だったんですけども、新町家のすすめでも、適切に断熱するということが現代の住宅ではありますし、最大限の風通しの確保ということで、窓の配置だったりとか、庭の配置を工夫することで、通風を確保するとか、そういったことを指針3で掲げさせていただいています。</p>
高田会長	<p>だから、今の話が、そのことが表現されていないと。説明のときにね、伝統的な京町家の知恵をこういう風にいかしましたという説明がされるべきだという御意見だと思いますので、それを更にきちっと技術的な対応の仕方まで述べると、先程の伊庭委員が言われたようなことが書いてあるともっとわかりやすくなるということだろうと思います。これは応募者が書かれた文章ですね。</p>
事務局	<p>そうです。</p>
高田会長	<p>そういうことですので、京都市で何らかのチェックをして本当に京町家の知恵をどういう風にいかしたかが読めるかということをやってくださいという小島委員の御指摘だと思いますので、今後そういう応募者が書いたものをそのまま流すのではなくて、基準に適合しているかどうかということをきちっとチェックして情報提供していただけるとわかりやすくなるということだと思いますので、よろしくお願いします。</p>
事務局	<p>補足になりますけども、新町家のすすめという冊子を2箇年掛けて新築部会で御議論いただきまして、5つの指針というものを設けております。そのうちの今委員に御議論いただいております京町家という建物の</p>

	<p>風通しとか意匠をコントロールするというような、京町家の知恵をいかして、新しい建物を建てる中においても、風の通り道をしっかりと確保して計画をするということをもっと全面に書いてもらうような添削的などころも事業者と協議しながら記述していくようにしていきたいと思いますので。バイブルとなるのはこの新町家のすすめであり、我々は、チェックしていくようにしたいと思います。</p>
高田会長	<p>今後、市民に情報提供するときに、そのチェックのプロセスをきちっと定めるということで、お願いしたいと思います。はい、他にいかがでしょうか。</p>
苗村委員	<p>すみません。よろしいでしょうか。苗村でございます。新しい委員なもので、的外れな質問かもしれませんが、指定京町家の改修補助金についてお聞きしたいんですけれども、私の管理しているオーナーさんもこの前利用させていただきました。今年度は6月の時点で終わっているという報告が先程あったんですけれども、それぞれ上限額が100万円であったり、あるいは250万円であるということをお聞きしております。早い者勝ちみたいな形で、早期に枠が埋まってしまっていると思うんで、例えば、上限額をもう少し下げて、広くもう少し多くの方に利用していただくということができないのかどうか、その当たりどうお考えかをお聞きできたらと思っております。以上です。</p>
高田会長	<p>次年度以降の考え方について、是非御説明いただきたいと思っております。</p>
事務局	<p>最初、鈴木の方から説明のあったように、京都市の財源が大変厳しい状況になっております。その中で、この京町家の補助金というのは、基本的に京町家であれば、景観でやっているものと違ってシーリングが掛かっていない状況になっております。委員がおっしゃったような上限額の設定というのものもあるんですが、どうすれば限られた財源を有効に使っていただけるかということは、今年度予算要求するに当たって、検討していきたいと考えておりますので、維持修繕に関しては今年度終わっているのですが、そこも含めて中で検討していきたいと考えておるところでございます。</p>
高田会長	<p>昨年度に早くなくなったということに関する理解は、苗村委員の言われているような解釈でいいのでしょうか。</p>
事務局	<p>そうですね。昨年度は、最終的には、外部の補助金は、年度内ぎりぎり、次年度に回していただくことによって、京町家所有者にお話をする中で、</p>

	<p>何とか年度内ギリギリもったんですけど、そこも外部も含めてですね、制度設計を少し点検していきたいと考えております。</p>
高田会長	<p>具体的にどういうところに落ち着くかというのは、まだ今答弁できる状態じゃないということですが、今のようなことを検討するということによろしゅうございますでしょうか。</p>
苗村委員	<p>はい。ありがとうございました。</p>
高田会長	<p>次にございますでしょうか。</p>
栗山委員	<p>今の支援のやり方との連携の関連なんですけど、個別指定と歴風のもの、今まで補助金については、部位が変われば、1軒のお家で、屋根と外壁とか、併せて受けられたと思うんですけども、今もそのような形という理解でよろしいのでしょうか。</p>
事務局	<p>委員おっしゃっているとおり、部位が異なれば、それぞれの補助金の上限額まで使っていただくことは可能でございます。</p>
栗山委員	<p>はい。もう一つだけ。全然別の話ですけども、資料2の12ページなんですけども、市の介在する京町家賃貸モデル事業というので、ここに改修前は外観で、中の改装はパースで出ているんですけど、この市が介在するというようなそういった内装のモデルに関しては、やっぱり町家さんの持っている何か要素っていうのが内装にもあるわけなので、そういったものがきちっといかされているような内装についても指導していかないといけないのではないかなと。これやったら別に市が介在したのではなくて、案件は市が介在しててもですね、表だけが町家さんで中を開けたら町家さんの要素が何もないというようなものがこういう絵面で上がっていくと大変寂しいなというように思うんです。ですので、やはり、こう京町家さんというのは、どんな小さい町家さんも釣り床があったりとか、庭があったりとか、色んな町家さんの内装要素というのがあるので、少なくともそういったものをいかしたようなインテリアパースというか、そういうのを指針の方には上げていただきたい。結果的にはこうなるかもわからないですけど、やっぱり指導するということでは、こういうものを視覚的に出していただきたいという希望です。以上です。</p>
高田会長	<p>何かこれに関して、京都市が設計にどう関わったかということで、説明いただければと思います。</p>

事務局	<p>そうですね。事業者と話をする中で、通り庭が残っていたので、その通り庭を中心としてオフィス空間として利用することも考えておられますので、住みながらここでの活用ということで、ちょっと手前分かりづらいんですが、土間空間をそのまま伸ばしてオフィス空間にするとかいう工夫はしていただいたり、極力、内装材もそのまま使っていただいたり、庭を残したり、奥の作業スペースでも土塗り壁を残して使っていただくとかについても、協議しながらやらしていただいているという状況でございます。</p>
高田会長	<p>ということは、京都市がこの設計に関わったという風に説明していいんですか。</p>
事務局	<p>アドバイスというか、お話をする中で、極力、そういう仕様にしていただけたところはしていただいているという、お願いしているという状況でございます。</p>
高田会長	<p>えっと、栗山委員のあの御指摘は、京都市として、内装の継承すべき特質が何だという風に言って、それは認められたのか認められなかったのかそういうことをやられたかどうか。そういうことを言われているんです。</p>
事務局	<p>そこまで細かいところまでは実際やっておりません。京都市が介入するって言っているのは、京都市が賃貸してそれを事業者に貸している状況です。</p>
高田会長	<p>そうですね。この設計者は、事業者が連れてきた設計者であって、設計の中に対して京都市が具体的に指導するという、私は機会はなかったという風に理解しているんですが。</p>
事務局	<p>まず、京町家を保全・継承するという目的と、やはり使っていただく方のニーズ、この2つのバランスをどう取るかというのが大変難しゅうございます。今、栗山委員におっしゃっていただいたように、確かに京町家の精神がなかったら、開けたら普通の借家ということでは、京都市が介入するものがこれではというのはおっしゃるとおりだと思います。一方で、こういう制度に乗っていくものをあまりハードルを上げると難しいということもあるかなと思います。おっしゃることは至極ごもっともだと思いますので、次回のケースの時にどういったことができるのか、しっかりと検討していきたいと思います。</p>

高田会長	<p>私が知っている情報の範囲で申しますと、このケースの場合、先程栗山委員が言われたようなことについても、ある程度真剣に取り組んで設計されたという風には伺っていますが、例えば、リノベーションの冊子が設計者に伝わっていなかったということも一方であって、そういう何を重視するのかということについての情報の共有は、この設計段階ではできていなかったと私自身は思っておりますので、できたら栗山委員が言われるような形で、もうちょっと具体的な指導のガイドライン、結果がどうなるというよりはプロセスの問題だと思っておりますので、せっかく色んなガイドラインを作っているわけですから、それが行きわたるような指導をしていただければという風に思います。</p>
事務局	<p>しっかりとアプローチしていきたいと思えます。</p>
高田会長	<p>栗山委員よろしゅうございますでしょうか。今言われたのは、こういうのを載せるときにそういう配慮がいきますよという、そういう話も含んでいたと思えますので。</p>
栗山委員	<p>事例として、公表されていくとこれで良いのねっていう印象となる。絵の描き方なのかもしれませんが、そういう宣伝の仕方も考慮していかないといけないのかなという風に思います。</p>
高田会長	<p>おっしゃるとおりだと思いますね。ありがとうございます。他にございますでしょうか。</p>
山田委員	<p>有隣の山田と申します。うちの学区で、私が見て非常に良い京町家なんですけど、去年1軒売られて、今年も1軒解体するという事で解体業者が来たんですけど、どちらもすごい良い町家で個人的には残していただきかったんですけども、さっきのマッチングは、誰か相手を探してというお話なんですけど、どちらもお金の話なんですけど、そんなん待ってられへん。お金がいる。そうすると、誰が説得してくれはっても売ってっているんですけども、そんなん無理な話かもしれないんですけど、例えば、京都市が一旦買い上げて、そこのお家にお金をあげて、その後、立派な京町家を有効利用される人を探すとかしていかんと、うちの学区、結構良い町家がいっぱいあるんですけど、どんどん、どんどん減って行って、みんなホテル、マンションなんです。学区の運営も、マンションばかり増えても、協力してくれないんで、学区自体の行事とか、色んなことが維持できていかない。うちも京町家かどうかわからないんですけど、細長いし住みにくいし、間取りが悪いって言うてるんで、私が死んだらどうなるかわからないというのが、うちの町内でもまだまだあるんです。何か良い</p>

	<p>方法がないかなと思っている。そこでちょっと発言させていただきました。</p>
高田会長	<p>具体的に、先程の地図に届け出ておられるのであれば出ている…</p>
山田委員	<p>個別指定はされていないです。</p>
高田会長	<p>個別指定でなくても、地区で指定されていますから。</p>
山田委員	<p>僕ら五条通なんです。ちょっと外れているんです。うちの万寿寺通の近くやから指定してと言っても、万寿寺通から外れているからできませんという話になって。そこの方も僕らよりちょっと年上なんですけど、亡くなられたりすると、後を継ぐ人がそういう制度があるとかないとかそんなことも御存知かどうかわからないんで、解体業者に1年前から京町家を潰しても良いという許可が出たんか聞いたら、そんなん何も聞いてないしわかりませんと言っている。業者はそう言う。そこら辺は、どうなんですかね。ちゃんと言ってるんですかね。</p>
事務局	<p>先程御説明してもらいましたとおり、京町家は4万軒ということで、個々にポスティングなどで、所有者に情報を届けるようなことはしています。併せて、先程委員おっしゃったような市が買い上げてということは財政的なことを含めてできませんが、資料4にありました保全・継承の取組の代表的な事例の事例1なんかもそうだったんですが、やはり、維持費が相当かかるし、こんなん買って欲せんのかと京都市がと、同じような話を1年半前にも聞いたことがございます。早いこと条例で来ていただいてコンタクトを取って我々が寄り添って解決策、必ず解決できるとは限らないんですが、事例1は、まさしく当時京都市を訴えてやるという話から来ましたが、建物に愛着を持っている方もいらっしゃるんで、条例の制度を機に早いことキャッチをして寄り添っていくということしかたぶんないと思うので、もちろんその中で、お金の支援として補助金がほしいものとか、何とか先回りしたいと考えているというところがございます。</p>
山田委員	<p>インターネットでの検索とかね、そんなんわかってはらへんし、する気もない。そういう方にどうやってこれを伝えるのか、それも課題だと思うんですけどね。はい。</p>
事務局	<p>周知の方法は、昨年度いただいた高齢者に情報が伝わるようにという意見もあり、そういったことをさせていただいたので、改めてどういう方法が有効か検討していきたいと思います。チャンネルを変えるなど、色ん</p>

山田委員	<p>な工夫をしてみたいなと思っております。</p> <p>よろしく申し上げます。はい。</p>
高田会長	<p>関連する御意見があったら言っていただいたらと思いますが、どうぞ宗田委員申し上げます。</p>
宗田委員	<p>はい、今の話なんですけど、今日の新聞にも載っていたんですが、今相続が老老化していて、亡くなる方の平均寿命が10年間で、男性で3.96歳、女性で4.1歳伸びているわけですね。その結果、相続をする方、亡くなられる方の年齢が85歳以上になっていて、相続を受ける方が60歳以上で町家とか不動産を相続する方が60%以上いるという状況になっているんですよ。今、誰が町家を相続するかというと基本的には御高齢の方ということになって、お商売されている場合、今みたいに売ることになるんですけど、その方に本当にちゃんと情報が届いているかというのが確かに昔よりは、遥かに難しくなっている。10年間で4歳以上歳を取っている分だけということになります。で、今回、今日の審議会の資料3でほぼ初めてこの種の解体、条例ができてから、どういう状況で解体されるかとかということがつまびらかになってきたんですが、例えば、指定以外の京町家のところ18ページの解体理由のところでは、老朽化と活用というのが2つ挙がっています。で、届出時の用途で、空き家というのが見てのとおり47件になっているという状況があって、所有者が高齢だからその町家を放置した状態で売ることもないということなんです。この制度は私はとてもよくできていると思うし、全国からも注目を浴びているかなり踏み込んだ制度だと思うし、むしろこういうものがもうちょっと文化財の世界にも広がっていくべきだと思うんですが、この老老相続の問題に対しては、色んなところで不動産関係の方がおっしゃっていることですが、生前贈与というのを盛んにしていく必要があって、例えば、町家だったら相続税の適正評価ということを景観法の云々で国の方をお願いして御協力いただくということを、皆さん御存知のように所有者の方あるいは京都市の御努力で適正化ということをしてるんですが、生前贈与をして、例えば、まだお父様が御存命のとき、お母様がその後半分相続しますから、お母様の持ち分になって、それがお母様が90歳以上生きた場合、相続が非常に難しくなるんですけども、その時にもっと早く80歳になる前に、お父様お母様が息子さんがまだ50代、できればもっと10年程早い40代の時に相続する生前贈与でということ、それが町家であれば、その生前贈与にかかる結構重いんですけども、贈与税の適正化をすることでかかっていう流通をずいぶん促進してきたんだけど、次の手として所有者の方から次の生前贈与で次の所有者に移して、その</p>

	<p>時に、生前贈与された方が活用するなり、それを流通させるなりということを考えるということになると思うんですね。生前贈与しちゃうと、御年輩の方はこの町家が好きだ、この暮らしが良いと言って、町家を大事にしてくださいるわけですけど、若い方は下手すると町家を壊し勝ちに走ってしまうことがあるじゃないですか。でも、今回こういう形で条例がありますから、そう簡単には壊せないという仕組みもあって、さらに、啓発活動も一生懸命しているので、若い方になれば、町家を残したいという気持ちを持っている世代ですので。25年前にやったアンケート調査でも、むしろ我々くらいの間層が町家を壊したがっていて、御年輩の方は、昔から愛着を持っているため残したい、若い方は、マンションとかよりも町家が好きだという人もいるんで、その若い方に贈与がなされれば、壊さずに使ってくれるということもあるかもしれません。この制度を実際にやってみて、町家の個別指定、地区指定もずいぶんやってきて、今ようやく次のプロセスとしてのマッチングとか解体をどう止めるかとかって議論になってきて、そのデータも揃ってきたので、今日、良い資料を見させていただいて思うのは、どんな次の手があるかなということを考えていて、今の課題としては老老相続、それが極限に達しようとしている。ましてやこれから更に老老相続が増えてくる2042～3年くらいまで、この老老相続が増えてくるみたいなんですけど、そろそろ生前贈与でどういうことが起こるかということの研究を始めてもいいかなということに気がきましたので、その継承は相続だけではない、流通がある、生前贈与があることを申し上げておきたいと思います。</p>
高田会長	<p>ありがとうございます。他に関連する御意見はありませんでしょうか。どうぞ、若村委員お願いします。</p>
若村委員	<p>はい。すみません。若村です。今回は資料3でマッチング利用あり・なしという資料が出てきましたので、私たちが今後考えられるとすれば、このマッチング利用なしで解体に至った状況であるとか、逆に言うと今働き掛け中が13件あるので、これがどういう方向に動くかということなので、資料4の方で、非常にうまくいったマッチングの状況ですとか、その当たり詳しく経緯が書かれていまして、逆に言うと、この解体に至った状況はですね、18ページの方に解体理由として経済的な負担があるとか、困難であるとか、土地の活用を検討しているなど、色々あるんですけども、これはもう少し、資料4のようにですね、ボリュームを持って少し報告書がもし出ればですね、経済的負担といっても実際どういう経済的負担なのかとか、困難であるというの、どう困難なのかですとか、今後その問題点のより詳細なところが出てくると、私たちとしても、またこういう手が打てるのではないかと、さっき宗田委員がおっしゃた</p>

	<p>ような老老相続の問題がそこに潜んでいるとか、色んな問題点がもし見えてくるとすれば、この解体された事例ですね、働き掛け中で、今どんなことに苦労しながら働き掛けておられるのか、どこまで細かい情報が赤裸々に出てくるかわかりませんが、その当たりを詳細につかんでいけば、もしかしたらもっと良い改善点が出る可能性があるのかなと思っています。以上です。</p>
高田会長	<p>ありがとうございます。今回、1年前に比べると、ずいぶん色んなデータを集めていただいて、実証的なことが色々わかってきたと思うんですが、今のようなものを出せる可能性はあるのでしょうか。</p>
事務局	<p>少し若村委員がおっしゃったようなところ、解体に至った理由のところとか、働き掛け中のものも含めて、ちょっと分析を始めてみたいと思います。同じようにできるかはわかりませんが。</p>
高田会長	<p>ありがとうございます。よろしくお願いします。井上委員どうぞ。</p>
井上委員	<p>私もその当たりのことなんですけども、質問させていただきたいんですけども、資料3の20ページのマッチング利用をした実績で31名おられて、私が一番気になったのは、提案内容不採用というのが9名おられるんですけども、これはたまたま最初に出てきた提案内容の相手だったり、活用用途みたいなのが気に入らなくて不採用だったかもしれないんですけども、この9件に関しては、だめだったら次という風に次々と提案できる状況になっているのか、この9件が保全にいくまでずっとやり続ければ、これが全部活用されたということにいくわけですよ。不採用だったから終わりではなく、ずっと続けるっていう仕組みになっているかっていう確認をちょっとしたいと思います。</p>
高田会長	<p>はい。ケースによって違うかもしれませんが、お願いします。</p>
事務局	<p>所有者自ら借り手を探すことになったものですか、依頼者から中止したいという申し出があったりとか、そういうものも含まれております。繰り返し活用に向けてという話ですけれども、所有者自ら売却先を探しますという話になったらその時点で次にというのはなかなか難しいですけれども、他の案件とかでも団体が7団体いますので、違う団体でもう一回提案募集をしてみませんかという形で引き続き活用先を探すということはさせていただいておりますので、一旦探して終わりではなくて、継続できるような形で、進めていきたいと思っております。</p>

井上委員	<p>私は、所有者さんがもうやめるって言ったのは、取下げだと思ったんですが、例えば、別の業者さんに頼むとか、この取下げというのは別なんでしょうか。</p>
事務局	<p>ある程度進んでいた段階でやめられたものは提案不採用に入れさせていただきますが、事業者の選定前に取り下げられた場合は、取下げにさせていただきます。団体を選んでいただき、活用者を探しているとか、その段階でやめられたものについては、提案不採用に入れさせていただきます。わかりにくいかもしれませんが、そこら辺はまた整理させていただきたいと思います。</p>
井上委員	<p>借り手は、一つの借り手しか提案してないということでしょうか。例えば、この建物に対して、借りたいと言っている方が2人おられた、買いたいという方が2人手を挙げたら、2人の方の提案をそれぞれ見れるという風に考えたらいいんでしょうか。</p>
事務局	<p>おっしゃるとおりです。7団体登録しておりまして、その1者を選んでいただき、そこから事業者を選んで、事業者に借り手を探してもらうという形になります。団体は一つしか選べないんですけども、借り手は複数探してきたりもしますので、そこは2人出てきたら2人分を所有者に見ていただき、どちらか選んでいただいたりとかはしていただける制度にはなっております。</p>
井上委員	<p>はい。わかりました。</p>
高田会長	<p>よろしいでしょうか。他にございませんでしょうか。関連の話ではなくて、別の内容でも結構ですので、御発言いただければと思います。内山委員どうぞ。</p>
内山委員	<p>全日本不動産協会京都府本部の内山と申します。よろしく申し上げます。今、実はですね、明治に建った町家の取扱いをしております。地区指定もされてなく、個別指定もされてないんですけど、見た目は結構良い町家なんですね。で、これを改装して残そうとしてるんですけど、補助金の対象にならないんですね。地区指定とか個別指定とかされていない京町家でも補助金の対象になるようにしていただけたらうれしいなと思います。よろしく申し上げます。</p>
事務局	<p>今、指定京町家についても補助金が出るんですが、例えば、耐震性に関してのものについてはまちの匠とかのメニューも設けておりますので、</p>

	<p>色んな補助金を使っただけならなと思っています。あとは、情報募集という、先程の指定部会でも説明したように提案いただいて我々も調査した物件をセレクトしていますので…</p>
事務局	<p>一度、その物件を紹介いただけますか。</p>
内山委員	<p>わかりました。</p>
高田会長	<p>木村委員どうぞ。</p>
木村委員	<p>我々のところにくる、解体したいという話は、箸にも棒にも掛からないようなもの、私たちが見てこの町家は、先程もあったけど、ええ町家か何とか言わはりますけども、建物のグレードとして、どれぐらいのグレードにあるのか。我々は材料を見ると一発でわかるんですよ。どう見てもあかんもん、これ私、潰しなさいと言っている。持っている方に。ただし、潰すからには、この場所に、それと同程度の木造の町家的なもの、新しい町家をつくるという条件で潰しましょうという提案しか出しません。で、こういうやり方をやっていかんと今、残せ残せでは、絶対数は減ります。で、潰したら、必ず、その数だけは、残そうという、この意識の方が大切なんと違うかなと。補助金云々もありますけど、しょせんはやっぱり個人財産ですので、やはり自分の財産で、お金でできる範囲を何とかやってほしいというのが私の希望です。以上です。</p>
高田会長	<p>はい。ありがとうございます。新町家の運用に関する、直接にはつながらないですけど、今の木村委員の意見を新町家の施策としても、検討いただけたらと思います。他にいかがでしょうか。よろしゅうございますか。大場委員どうぞ。</p>
大場委員	<p>はい。報告資料1で指定部会の御報告をいただきました。私、座長を務めておりますので、この責任の一端を担っている立場ではあるわけですが、この資料を見ていただきますとわかるとおり、例えば27ページでは、地区指定が15地区に増えて、これかなり色が付いているんですね。ですから、3年間の取組の一つの成果として多い少ないかという評価はともかくとして、成果として、見せることができそうだなという気がいたします。一方でですね、個別指定につきましては、1千件を突破したということで、一つの過渡期にあるんだという風に思っているんですけども、相変わらず、数字が増えるだけで、一体どんな町家が指定されたのか、どんな姿をしているのか、それがどこにあるのかということ、全く皆さんにお示しすることができないでいるんですね。これは個別指定</p>

	<p>の取組の努力がですね、ほとんど視覚的に御紹介できない、そういう歯がゆさをすごく感じております。これは部会でもその都度議論することがあるわけですが、個人情報という壁に阻まれてですね、個別のものを御紹介することができないという風な状況の中で、こういう風な成果の御紹介の仕方しかできないということは、もうそろそろ何とかならないのかなという風な意味でちょっと発言をさせていただきました。少なくとも、許諾を得られた町家についてはですね、全体の1千件の中的一部分のかもしれないけれども、御紹介をしていけるのではないかとという風な思いを持っています。例えば、この自薦型の指定の情報募集についても、かなり数が増えております。こういったものっていうのは、もっと自分の町家を評価して、アピールしたいっていう思いで手を挙げて来られているんだという風にも思いますので、もっと一定の範囲の中となるわけですが、表にどんどん出していききたいなという風な思いを持っております。何とかこの情報公開の壁を突破していただけるような検討を進めていただければと思っているんですが。</p>
高田会長	<p>ありがとうございます。何かこれに関しては、コメントございますか。</p>
事務局	<p>個人の財産の個人情報の問題もあるんですが、おっしゃっているように許諾を得ているものとか、自薦のものとか、丁寧な確認をしたうえで、お示しできるようなことを検討していきたいと考えております。</p>
小島委員	<p>すみません。小島ですが、ちょっと今の情報公開の話で、この間、景観の方も同じように景観重要建造物の情報公開をされるっていう話があったんですが、私はものすごく反対しました。やっぱり、個人の住宅をそこまでするのかっていうことが一つあります。で、写真が載った瞬間、人が来はります。で、それを断るのはとても大変な作業なんです。出したいという意見はたくさんあるかもしれませんが、これについては十分注意していただかないと何か指定を受けたからこういうことが義務になるとおっしゃるんだったら正直私は指定を外したいと思えますし、そこら辺のところをもっと丁寧に議論をしていただきたいと思います。</p>
事務局	<p>違う制度なんですけど、京都市民が残したい京都を彩る建物や庭園制度というのがございます。そこは今大場委員がおっしゃったように、当然、所有者の同意を得たうえでですけども、ホームページで紹介するという形を取っております。今小島委員がおっしゃった色んなそういうこともございますので、その辺は指定部会の方でも大場委員に御議論いただきたいと思えますし、私どもも知恵を出していきたいと思えます。</p>

高田会長	<p>その公開する情報の中身の問題があると思います。大場委員が言われているのは、どこに京町家があるのかという、そういうタイプの情報だと思いますし、小島委員の言われているのは、特定の正にプライバシーの公開という、そういう側面の問題をされているんだと思いますので、それについてきちっと整理したうえで、今のような議論を是非きちっとやっていく方向で検討いただけたらと思います。はい。よろしいでしょうか。まだ発言いただいている方もありますが、もし何か思い付かれたことがありましたら、後でまた発言いただいても結構でございますので。</p>
高田会長	<p>5 取組紹介</p> <p>すみませんが、5番の取組紹介という方に移らせていただきたいと思っています。今日はですね、京町家再生研究会の方の取組事例ということで、小島委員からですね、取組を紹介していただくということになっておりますので、よろしく願いいたします。</p>
小島委員	<p>平成30年くらいからですが、かつてから私たちは、子どもたちにきちっと、町家というか京都の伝統的な建物について理解してもらうことが、ひいては一般的に、大人たちにも、もう少し広がっていくのではないかと、子どもの教育ということに、何か関わっていけないかということとをずっと思い続けておりました。</p> <p>それで、まず私たちは、親子体験教室、これは京都市の文化財保護課から御紹介いただいた文化庁の取組ですが、その中で、私たちが考える、町家と子どもということで、体験教室を年に6回開きました。</p> <p>色々なシーズンに来てもらって、みんなで体験をする。夏だと祇園祭とか、みんなで掃除をしてみようとか、合わせて、みんなで京都の伝統的なお菓子をおやつと一緒に食べるというようなことをしております。もちろん家での体験だけではなくて、どういうものでできているのか、どういう色を塗っているのか、ワークショップもみんなでしました。職人さんと話をしながら、手入れの仕方を習ったりというようなこと。それから、これは土壁ですね。土壁を塗るということを、子どもたちがどんな反応を示すかと思っていましたら、すごく一生懸命に、丁寧に塗るということをやりにだして、おやつも忘れて、休む時間も忘れて、最初からしまいまで、ずっと作業を続けるという、楽しくワークショップ体験学習をしました。もちろんここでも職人さんたちと一緒に触れあいながらですね。</p> <p>夏から冬にかけてですので、家の中でどんなこと、先ほど気密性という話がありましたが、うちの家は寒いので、寒さにどういう対応をするんだろうということ、今の子どもたちは炭を熾すことも体験したことがないので、こんな風に炭を熾す体験をして、それでお湯を沸かして、お湯を飲んでみるということもやりました。それから、障子を貼る。年末、大掃</p>

除をして障子を貼ることも経験しました。そうすると、家の障子貼りを手伝ってくれたという、お母さんの声が出てきたりしまして、子どもたちが家と関わる、何か町家と関わるというような色々なことが起こってきました。子どもたちがお母さんたちに、こんな風に、これは小豆粥ですが、自分のお母さんたちにお出しするということをしました。みんなでお座敷の使い方を見てみたり、掛け軸ってとてもコンパクトな、海外だと大きな額縁の絵になるけれども、日本のものっていうのはコンパクトに収納できますよ、という話も、住まいと中身について、色々なことをしていました。お茶も点ててみたいとのことで、みんなでお茶を点てることをしました。

この取組で高倉小学校の岸田先生と出会いまして、家庭科教育の中の住教育ということに、うちの研究会が協力をするということになりました。それまでも色々な小学校から、町家見学という形で、家に子どもたちが来るということが何回かありましたが、直接、高倉小学校の先生方とやり取りをするようになりまして、まずは町家の授業というのを見せてもらいました。そうしたところ、残念なことに写真とかが本当の町家じゃなかったり、模型がちょっと雑だったり、そういうことがあって、子どもたちには、できたら本物を見せてほしいということ、先生方に申し上げて、それからこういうことがスタートした訳ですけれども、こういうプログラムですね。2020年と2021年。実は、このやり取りの中で、高田会長が博報堂財団の教育に対する助成を御紹介くださいました。それに岸田先生が応募をされました。そうしたら見事にこの計画が博報堂に通りました。そのVRを作るということ、それから色々なガイドを作るということについても補助金が出ました。それで、スピード感良くこういう話ができた訳ですね。

今日の話のメインはVRですが、子どもたちの家庭科教育に、今のところ限定しているのですが、家庭科教育の中で、町家の知恵というのをどうするかというので、夏の暮らし方、冬の暮らし方。コロナの前、去年、一昨年は、夏・冬に高倉小学校の6年生が家に2クラスずつやって来て、町家の見学とお座敷に座ってみる体験をして帰りました。その時の反応がとても良かったのですが、去年から残念ながらコロナ関連で動きが悪くなったので、VRを早速作ろうということになりました。こういう様々なことを考えながら、これをどんな風にVRにいかせるかを検討しました。これは見学の様子ですね。それから子どもたちが、見学した後にどんなことを考えているかということもアンケートで答えてもらいました。今日、本当は、動いているところを見ていただきたいのですが、ここで動かしてみても、重くて途中で止まってしまったりするので、今日は切り取った写真にしています。360度カメラを設置して、色々なところを撮って、家の中を探検するということです。かなり家の中が見え見えになってし

まいますので、ちょっと人には頼みにくかったので、私の家がこの中に使われています。色んなところにポイントを置いて、全部見せるというのはしんどいので、見せたいところだけを切り取って、色んなポイントの中で、子どもたちが自由に行き来できるようになってます。

こういう画面が、この丸、赤丸と青い丸と黄色があって、それをクリックすると、例えば襖の説明が出たり、建具を替えている動画を組み込んでます。夏と冬という風に切替えができるポイントも作ってあります。こんな風にタブレットを使って子どもたちが授業をしています。

今年に入ってから、伏見の南浜小学校、中京区の朱雀第八小学校、高倉小学校の3つの小学校で、実験的に、子どもたちの反応がどうなるのか授業を見せていただきました。これには、家庭科教育研究会という家庭科の先生方の勉強会があるんですが、そちらの先生方がとても熱心に対応してくださって、その先生方の努力で、すんなり子どもたちがこのタブレットを使って、町家に入るといえることができています。VRを実験的にやってみた時の子どもたちの反応、感想が色々あるんですが、面白いということで、案外みんなすんなり使いこなし、私たちが考えていた使い方に対する不安もなく、どんどん自分たちで自由に入ってそれぞれが色んなものを調べるといえることをしました。

それに合わせて、先生方も町家を全く御存知ない方も多いので、指導ガイドを岸田先生たちと共同で作りました。町家について、色々な考え方をするといいことですね。京町家を教材にして学習をして、それを一般化する。例えば、町家の知恵や工夫を現代の暮らし方に合わせた時、自分の家に振り返ったときに、どういうものの考え方をするか、というようなことをみんなが考えてくれました。色々面白い意見があったんですが、この6月14日から実験授業でなく、本当の授業で使ってもらっています。

その最初が高倉小学校ですが、まずVRを使って家を見て、6月22日と29日に2クラスずつ、見学に来ました。VRで見たときに色々な質問があったんですが、それを自分たちが実際に見て、体感して答えを見つける。「本当に涼しいんですか。」、「本当に夏の敷物って冷たく感じるんですか。」という疑問を持って、みんなが興味津々でやって来ました。それが、自分たちで考えたことを、自分たちで答えを導き出すということになりますので、とても効率良く子どもたちに町家のことを知ってもらえる機会ができたと思っています。

住まい方について、涼しく暮らす方法というので、子どもたちも風通しということをお話していますが、それ以外にも、部屋の中を片付けるというような、「町家のお座敷って何も置いてないの。」「ここ本当に住んではるんですか。」という意見や質問もありましたが、こういう暮らし方なんですよという説明をしたら、家で涼しく暮らすためには、家の中を片付けるというような反応も出てきたりして、逆に私たちが、色んなことで教えら

高田会長

れることが沢山あります。

このVRを家庭科の時間に使えるということになってますので、どこまで先生方にお使いいただけるかは、まだまだ未知数ですが、夏には家庭科の先生方の研修を行うということも、今決まっております。また、町中の学校ではなくて、郊外に行った時に、子どもたちがどういう反応をするかも検証したいので、今度はニュータウンの学校での授業を見に行くということも加えて、これを少しずつブラッシュアップできたらいいなと思っています。

もう一つはこれをもう少し発展型にして、今、中学生に対してどういう取組ができるかというようなこともスタートしたところですが、徐々に町家と教育というものが広がってきているかなと思っています。

このVRは、教育委員会がデータを管理してくださっていますが、この二列型の京町家とは別にもう一つ、一例型の釜座の家もVRを作って、同じような説明を付けて、英語・日本語で作っているものもありますので、これについては色々教育で使っていただけるように、これから広がっていくと思っているところです。以上です。

非常に膨大な取組を短時間で紹介していただいたので、色々御質問等あると思いますけども、ちょっと今日は時間の関係上、御紹介をしていただいただけということにさせていただきますと思います。簡単な、もし質問があるようだったら言っていただいて結構なんですけども。よろしゅうございますか。では、小島委員どうもありがとうございました。それじゃあ、一応、今日予定していました議題、以上でございます。もう既に10分間程、時間が過ぎているんですが、全体を通じてお伺いすることがあったら、先程言い忘れたというようなことでも、御発言があれば、言っていただいたらと思います。いかがでしょう。よろしゅうございますか。はい。それじゃあ、あとちょっと私、先程の山田委員の言われていたことに関連して、実は、持ち主とか行政の関係の話も大事なんですけども、地域の力というのがですね、私、この町家の保全継承、生活文化の継承という意味では非常に大事だと思っています、有隣学区のように非常に活発に活動されている地域で、やはり、京都市ともう少し連携をして、京町家の継承についてですね、具体的な地域としての取組をですね、やっていただける。そういうことが進むと解体のコントロールということからも効果があると思いますし、何よりも生活文化の継承という意味でですね、やはり一戸一戸の家の話だけでなく、地域の力というのは非常に大きいと思います。そういうことも考えていただければありがたいなという風に思って聞かせていただきました。よろしく願いいたします。それじゃあ、今日の色々な意見をいただきましたので、もう一度整理したうえでですね、具体的な施策の展開の場面に使っていただきたいという風に思います。私

事務局	<p>の議事進行は以上とさせていただきたいと思います。どうも、進行に御協力いただきまして、ありがとうございました。では、事務局の方に進行をお返しいたしますので、よろしくお願ひします。</p> <p>はい。ありがとうございました。今後の予定について少し御説明させていただきます。本審議会に関しては、特段御議論いただくことがなければ、今年度の開催は1回を予定しておりますが、指定部会では昨年度に引き続き、今年度も個別指定と地区指定を御議論いただく予定にしております。指定部会の委員の皆様におかれましては、どうぞよろしくお願ひいたします。以上をもちまして、令和3年度京都市京町家保全・継承審議会を終了させていただきます。長時間の御審議ありがとうございました。</p> <p>(以上)</p>
-----	--